

# 身近な林はどんな林？ ~林のようす調べの結果から~

## 林や林の周辺はどんなようす？

~林のアンケートの結果から~

動植物の調査と一緒に、対象とした林のようすについても報告していただいた結果、のべ7,254ヶ所の林について情報が得られました。林のまわりの環境としては、住宅地がもっとも多くを占め、また、全体の4分の3が人里に近い場所でした。

林の種類としては、公園の林がもっとも多く、社寺林と丘陵や山地の広い林がそれに次いでいました。この集計でも、人里近くと考えられる林が4分の3を占めており、身近な林

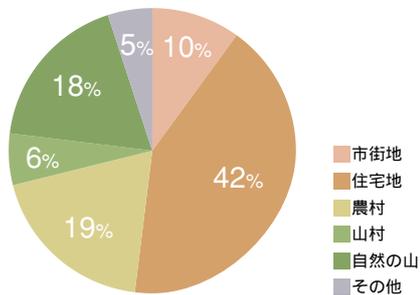
を調べるという目的は達せられたといっただいでしょう。

対象とした林の面積については、全体の約80%の林が100m四方以上の比較的広い林であることがわかりました。

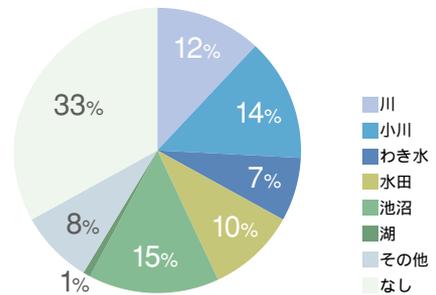
また、林周辺の水辺環境についてたずねたところ、約70%は、水辺が近くにあることがわかりました。

秋冬調査で、林を作っている樹木の種類について報告していただいたところ、コナラ・クヌギ・サクラ類などの広葉樹の多い林が半数以上を占めていました。また、常緑樹と落葉樹の割合では、落葉樹が優占する林が多数を占めていましたが、両者が混ざった林も多く見られました。

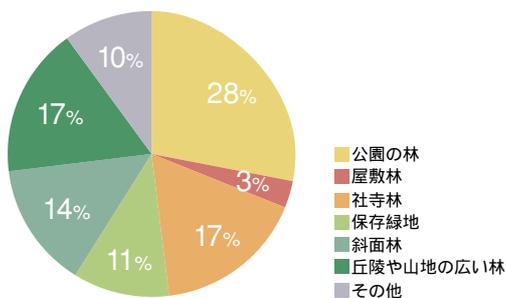
あなたの選んだ林はどんな場所にありますか？  
まわりの環境は？



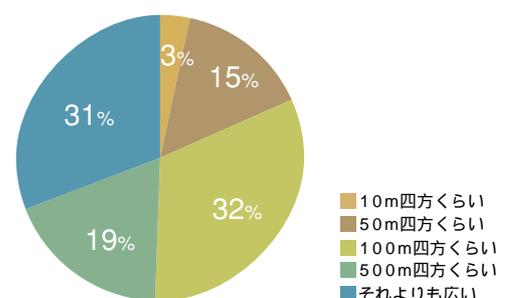
あなたの選んだ林はどんな場所にありますか？  
林のまわりに水辺がありますか？



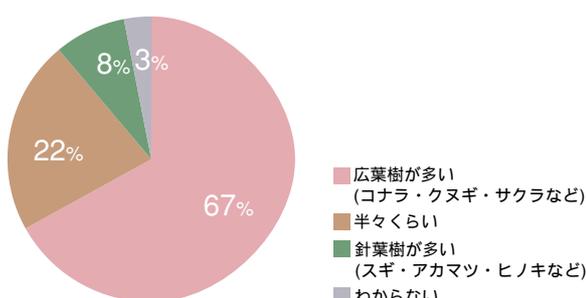
その林はどんな林ですか？（林の種類）



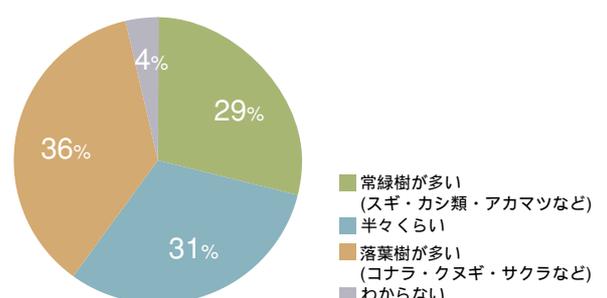
林全体の面積はどのくらいありますか？



広葉樹と針葉樹ではどちらが多いですか？



常緑樹と落葉樹ではどちらが多いですか？



## 林で見られる生きもの・昔と今

～インタビューの結果から～

林の持ち主や管理している方にインタビューができた場合、そこで得られた情報についても報告していただきました。対象となった林のなかで、この報告があったのは、約40%でした。

昔はいたのになくなった動植物についてみると、哺乳類が多く、ノウサギ・タヌキ・キツネなどの中型哺乳類に姿を消した種が多いようです。植物・菌類ではマツ類が1位を占めました。これは松枯れの広がりによるものと考えられます。また、シュンラン・エビネ・キンランなど美しい花をつける植物が多くあがっていることは乱獲らんかくや林の管理の仕方の変化による影響と推測されます。

一方で、最近見られるようになった動植物としては、カラスという回答が目立ちました。カラスは、ゴミを餌として利用することによって個体数を増やしているといわれていますが、この調査でもそうした変化が反映される結果となりました。また、イノシシ・ニホンジカ・ニホンザルについては山麓部さんろくぶに進出している傾向が現れているものでしょう。植物では、セイトカアワダチソウなどの帰化植物が上位を占めていました。また、昆虫についての事例はわずかでしたが、名前のあがったナガサキアゲハ・クマゼミ・ツマグロヒョウモンは北上しつつある南方系の種という共通点があるのが興味深く感じられます。植物で名前のあがったシュロも同じような性格のものです。

### 昔はいて、今はなくなった動植物 トップ10(分類別)

脊椎動物

種名	出現件数
1 ノウサギ	243
2 タヌキ	169
3 キツネ	110
4 キジ	74
5 イタチ	70
6 リス	66
7 フクロウ	63
8 ヘビ類	48
9 コジュケイ	31
10 マムシ	19
10 ムササビ	19



無脊椎動物

種名	出現件数
1 カブトムシ	48
2 クワガタムシ類	37
3 ホタル類	28
4 トンボ類	12
5 セミ類	11
6 タマムシ	7
7 チョウ類	6
8 カミキリムシ類	5
8 ニイニイゼミ	5
8 ハルゼミ	5



植物・菌類

種名	出現件数
1 マツ類	40
2 シュンラン	38
2 エビネ	38
4 マツタケ	24
5 キンラン	22
6 アカマツ	19
6 ヤマユリ	19
8 カタクリ	15
9 キキョウ	14
10 リンドウ	13
10 センブリ	13



### 昔はいなかったのに、見られるようになった動植物 トップ10(分類別)

脊椎動物

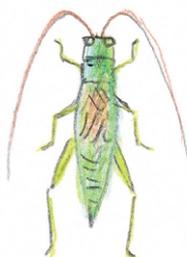
種名	出現件数
1 カラス	104
2 イノシシ	76
3 タヌキ	62
4 ニホンジカ	41
5 サル	40
6 ノネコ	39
7 キツネ	36
8 ハクビシン	33
9 キジ	29
10 タイワンリス	27



無脊椎動物

種名	出現件数
1 アオマツムシ	10
2 ナガサキアゲハ	6
3 クマゼミ	5
4 アリ類	4
4 ツマグロヒョウモン	4

注) 6位以下は、出現件数が2件以下だったため、省きました。



植物・菌類

種名	出現件数
1 セイトカアワダチソウ	136
2 セイヨウタンポポ	36
3 オオボタクサ	15
4 シュロ	13
5 タケ類	12
6 ブタクサ	10
7 ササ類	9
7 アオキ	9
9 アメリカセンダングサ	8
10 クズ	6



## 身近な林はこんな林！

みなさんに調べていただいた身近な林には、さまざまな環境のさまざまな林がありました。そこで、身近な林の現状や植物の解析をするにあたって、p.12のグラフで示した「まわりの環境」と「その林はどんな林ですか（林の種類）」の項目を利用して、報告数の多かった代表的な林の組み合わせを中心に、右に示す7つの「林のタイプ」に分けて、集計を行うことにしました。残念ながら7つのタイプに当てはまらなかった林の方は、ご自分の林にもっとも近い林のタイプを参考にしてこのページ以降の結果を見てください。なお、ここで示した林のタイプのなかでは、住宅地・市街地の公園林がもっとも多くを占めていました。

## 林のタイプ一覧

まわりの環境	その林はどんな林ですか（林の種類）	林のタイプ名
市街地 住宅地	公園の林	市街地・住宅地の公園林 ① 
	屋敷林・社寺林	市街地・住宅地の屋敷林・社寺林 ② 
	保存緑地・斜面林 丘陵や山地の広い林	市街地・住宅地の保存緑地・斜面林 ③ 
農村 山村 自然の山	公園の林	農村の公園林 ④ 
	屋敷林・社寺林	農村の屋敷林・社寺林 ⑤ 
	保存緑地・斜面林	農村の保存緑地・斜面林 ⑥ 
	丘陵や山地の広い林	農村の山地林 ⑦ 

## こんな林で調査しました

みなさんが調査した林をいくつかご紹介します。



撮影：愛知県 江崎昭雄さん



撮影：大阪府 川中照子さん



撮影：静岡県 三田部力さん



撮影：宮城県 小澤操さん



撮影：東京都 高野武子さん



撮影：兵庫県 横山千帆さん・永多莉絵さん



撮影：沖縄県 エコネット・美さん

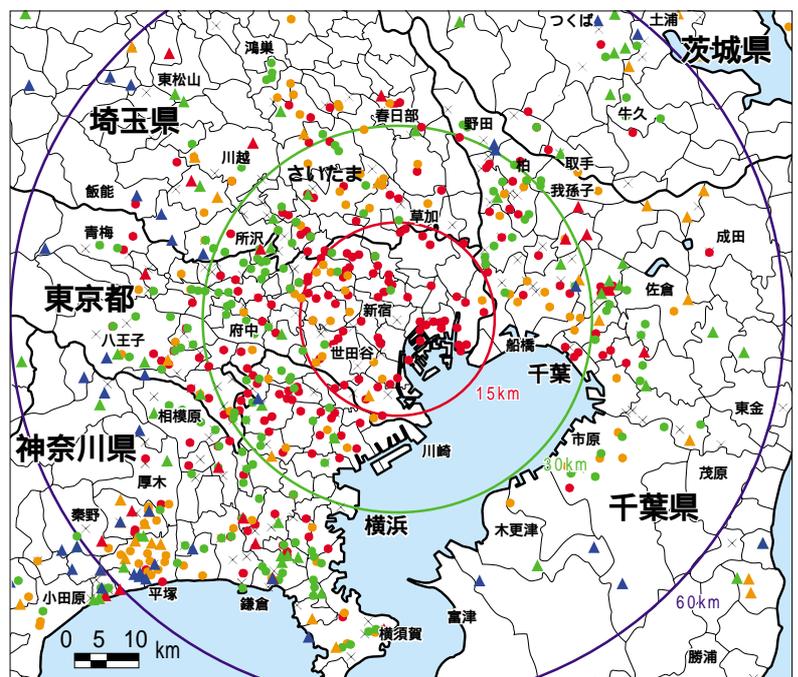


撮影：熊本県 武田明美さん

## 首都圏周辺の身近な林の分布状況

首都圏では、こうした林のタイプがどのように分布しているかを地図で示してみました。都心から離れるにつれて、凡例に示す番号の大きなタイプの林が増えていくことがわかります。このページ以降で示すいろいろなテーマの集計では、林のタイプの番号が大きい林ほど、都市化の影響が小さい林と考えてください。

市街地・住宅地の公園林
市街地・住宅地の屋敷林・社寺林
市街地・住宅地の保存緑地・斜面林
農村の公園林
農村の屋敷林・社寺林
農村の保存緑地・斜面林
農村の山地林
x その他



## 林のタイプ別に見た林の現状

身近な林は、昔からいろいろな形で人々に利用されてきました。樹木を切り倒して材木や薪、炭として使う場合もあれば、山菜やキノコなどを食糧として利用する場合もありました。雑木林と呼ばれる里山の林では、そうした利用がしやすいように、定期的に落ち葉かきや下草刈りが行われていました。落ち葉は田畑で使う堆肥として使われることも多くありました。

こうした管理が行われなくなると、植生の遷移が進んで、その地域の自然林に移り変わっていくという面と、ササ類が茂ったり常緑樹が多くなって、林が暗くなり、明るい林に生息する動植物が姿を消してしまうという面があります。どちらの面を重視すべきかは、その林の置かれた状況によっても違うでしょうが、身近な林では実際にどの程度そうした管理が行われているかを林のアンケートの結果を使って林のタイプ別に調べてみました。

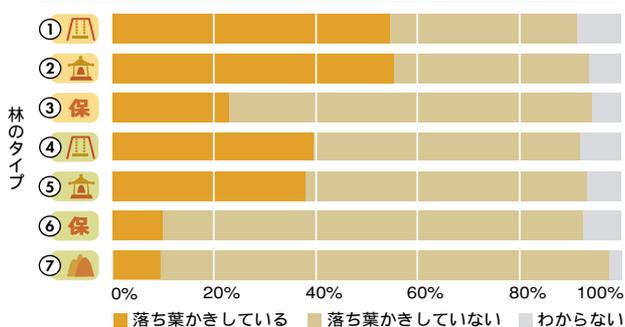
その結果、落ち葉かきについては、市街地・住宅地の公園林と屋敷林・社寺林では約半数の場所で行われていました。市街

地・住宅地であっても保存緑地・斜面林では落ち葉かきをずる割合が明らかに少なくなっていました。また、農村の場合も同様な傾向が認められました。こうした傾向は、下草刈りにについてもまったく同じでした。

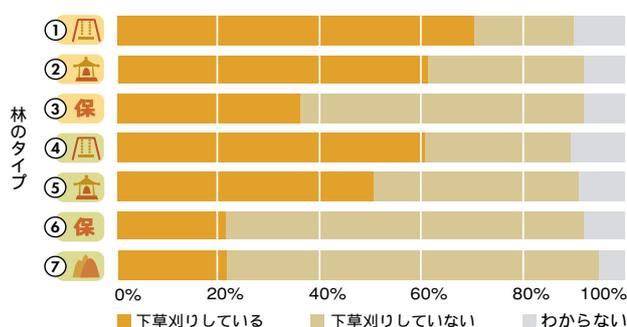
人による利用についてみると、公園林で人を見かける割合が特に高く、またその目的はいずれの林でも散歩が最上位を占めていました。現代では、身近な林を訪れる目的は、山菜とりのような資源としての利用ではなく、散歩などの健康維持や趣味のための利用が大多数を占めていることがよく現れています。

林のなかのゴミの量を聞いたところ、特に市街地・住宅地の保存緑地・斜面林にゴミが多いことが分かりました。この結果からは、人がよく利用している林にゴミが多いわけではなく、むしろ人の利用が少ない林がゴミ捨ての場として意図的に使われていることが推測されます。公園林では、管理の目が行き届いているためかゴミは少なく、屋敷林・社寺林ではさらに少ないことがわかりました。なお、ゴミの種類としてはほとんどの林のタイプで空き缶・ペットボトルが1位を占めていました。

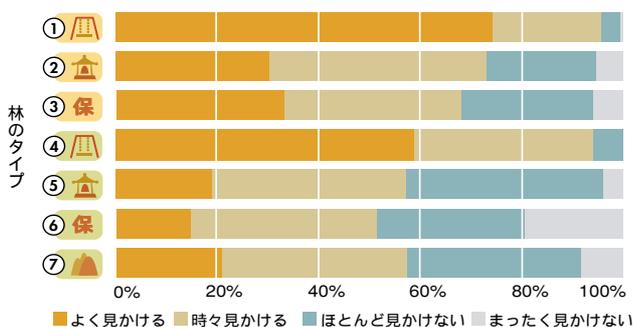
落ち葉かき（割合）



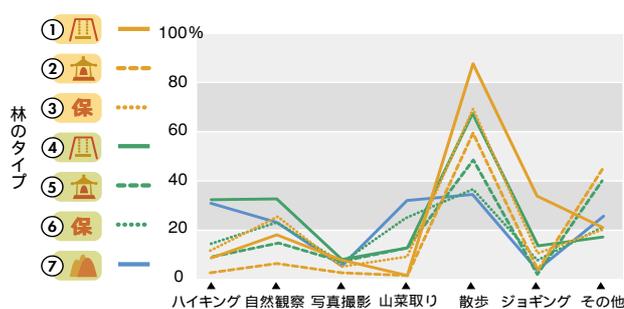
下草刈り（割合）



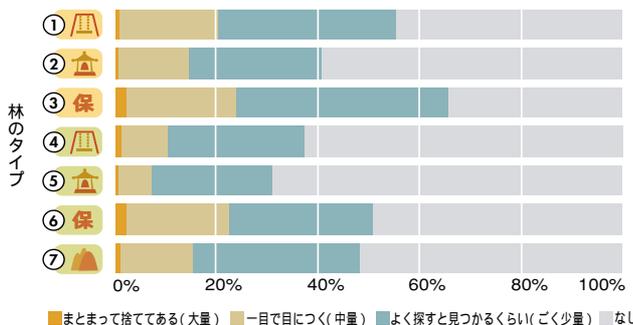
人をよく見かけますか（割合）



訪れる人の目的（出現率）



ゴミの量（割合）



ゴミの種類（出現率）

